

英語科学習指導案

活動場所	本校舎3階	2年2, 3組	教室
生徒数	2年2組	男子15名 女子16名	計31名
指導者	教諭	基本コース 標準コース	久保 孝明 池本 源二郎

1 単元名

NEW HORIZON 2 Unit5 「 A Park or a Parking Area 」

2 単元について

本単元では、ある事故をきっかけに市が公園を駐輪場にするという新聞記事を読んだ地域の人が反対の意見の投書を送ったことから、「公園を維持するか、駐輪場にするか」という議論が起こる場面が取り上げられている。身近な地域の問題を取り扱いながら、「事実を伝える」「意見を述べる」という言語活動が可能な内容となっている。また、このような身近な社会問題について、賛否の論点を整理したり、課題を解決しようとしたりする態度を養っていくのに適した題材となっている。

言語材料としては、I am for (against) へのような賛成・反対を表す表現や英字新聞特有の表現などを学習し、文法事項としては従属接続詞 (if, that, when, because) をまとめて学習できるようになっている。これらの従属接続詞等を用いることで、自分の考えや感じたことをより豊かに表現したり、英文と英文をつないだりすることができ、より深まりのある英文の理解や表現ができるようになる。なお、これらの従属接続詞を扱うのは初めてであることから、基本的な対話練習や繰り返し学習を多く取り入れながら指導していくことで定着を図りたい。

本クラスの生徒の中には、全体的には英語学習に対する意欲が高い生徒が多い。しかし、自分から積極的に発言したり、対話練習などに意欲的に取り組むことに恥ずかしがる生徒も数名いる。7月に行ったアンケートの中では「英語を学習することは大切ですか」という質問に対し76%の生徒が「大切」と答えている。しかしながら、「英語を学習することが好きですか」という質問に対して「どちらかというと嫌い」という答えが41%、「とても嫌い」と答えた生徒が17%いた。また、NRTの小問分析によると「質問や依頼に適切に応じること」と「手紙の内容を理解し応じること」において全国平均を下回っており、場面に応じた適切な応答や表現の仕方が身につけていないことが分かった。そして、基本的な語句の定着が不十分であることから、「書くこと」や「話すこと」についてはまだまだ物足りない点も多く、生徒一人一人の実践的コミュニケーション能力を育成するまでには至っていないというのが現状である。そこで2年生では、ワークシートを用いたノート指導により英語学習の仕方を理解させたり、本文の音読、暗唱や新出語句を用いた英作文などの「帯学習」を徹底したりしたことにより、英語で短い文章（短文）

を書くことについては少しずつではあるが身に付いてきたようだ。

そこで、本単元を指導するに当たっては、少人数というメリットを最大限に生かしながら、身近な社会問題について取り上げた英文を読むことから単元の目標である生徒自身の身の周りの問題点について考えることにつなげて、自分の意見や気持ちを文章で適切に表現しようとする意欲を高め、実践的コミュニケーション能力の育成に努めたい。

3 単元の学習目標

- (1) 基本的な表現を用いて積極的に身近な地域について表現しようとする態度を育てる。
- (2) 従属接続詞 (if, that, when, because) を用いて自分の気持ちや考えを相手に伝えることができるようにする。
- (3) 相手が伝えたいことを聞いたり読んだりして、内容を理解できるようにする。
- (4) 従属接続詞 (if, that, when, because) の意味、用法を理解することができる。

4 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	
学習活動における 具体的な評価規準	想定される生徒の学習状況と手だて
	A 「十分満足できる」と想定した生徒の状況 C 「努力を要する」と判断した生徒への手だて
① 間違いを恐れずに、積極的に自分自身のことについて英語で表現しようとしている。	A 相手の聞きたいことに留意しながら、自分の意見を積極的に伝えようとしている。 C 身近な地域の問題点を紹介するために必要な基本表現を繰り返し練習させ、 定着を図るとともに、賞賛することで自信をもたせる。
② 様々な工夫をすることでコミュニケーションを続けようとしている。	A 様々な語句や表現などを用いて、意欲的に会話を続けようとしている。 C 会話を継続するために必要なあいづちやつなぎ言葉などの語句を繰り返し練習させ、慣れさせる。
イ 表現の能力	
① 自分の意見や考えを適切な表現を用いて述べることができる。	A 既習の表現や、従属接続詞 (if, that, when, because) を用いて、自分の意見や考えを述べるができる。 C 意見を述べるために必要な基本表現を繰り返し練習させ、身に付けさせる。
② 適切な表現を用いて文章を書くことができる。	A 既習の表現や、従属接続詞 (if, that, when, because) を用いて、身近な地域の問題点などについて文章で紹介することができる。 C 身近な地域の問題点を紹介するために必要な基本表現や基本的な英文の書き方を具体的に指導する。
ウ 理解の能力	
① 教科書の大切な部分についての英文を読み取ることができる。	A 教科書の内容のポイントを押さえ、大切な部分を読み取る。 C 基本的な語句の読み方を練習させるとともに、本文の意味内容を読み取りの視点を与えるなどして、再度確認させる。
② 相手が伝えたいことを聞いたり読んだりして、適切に応じることができる。	A 相手が聞きたいことや伝えたいことを正しく理解し、自分の考えや感想を伝えることができる。 C イラストや写真などを示したり、ヒントやキーワード等を与えたりすることにより相手の伝えたいことを十分理解させうえて、自分の意見を考えさせる。
エ 言語や文化についての知識・理解	
① 従属接続詞 (if, that, when, because) の意味・用法を理解することができる。	A 従属接続詞 (if, that, when, because) の意味・用法を正しく理解し、運用することができる。 C 従属接続詞 (if, that, when, because) の基本的な意味・用法について具体

	的な事例を基に指導し、繰り返し練習に取り組ませる。
② 身近な地域の問題点を見つけ、英語で紹介することができる。	A 身近な地域の問題点を見つけ、適切な語句を用いて英語で紹介することができる。 C 教科書だけでなく、様々な資料を用いて、身近な地域の問題点について紹介するのに必要な語句を繰り返し練習させる。

5 単元の学習及び評価計画

時間	主な学習内容	評価項目	評価方法
1	<u>本課の学習計画や活動内容の把握</u> ・ 本課の目標の提示，スキーマ形成		観察・ワークシート
2	<u>SO（「鹿児島<吉田>の見どころは？」というテーマで地域を紹介しよう）</u> ・ 新出語句の理解（英作文） ・ if 節の理解と練習 ・ SO の本文の理解と音読練習・暗唱 ・ if 節を用いた表現活動	エー① エー① イー① イー①，②	ワークシート 観察・発表 ノート・観察 観察・発表
3	<u>Dialog（「地域のココが不満だ」というテーマでペアによるスキットを作成しよう）</u> ・ 新出語句の理解（英作文） ・ that 節の理解と練習 ・ 本文の理解と音読練習 ・ スキット作成及び発表	エー① ウー① イー①，② イー①，②	ワークシート 観察・発表 観察・発表 観察・発表
4	<u>Reading（記事の内容から、地域の紹介に必要な表現を学んで、使えるようになる。）</u> ・ 新出語句の理解 ・ when 節の理解と練習 ・ 本文の理解と音読練習 ・ 重要表現を用いた記事に対する意見文の作成	ウー① ウー① ウー① イー①，②	ワークシート 観察・発表 自己評価表 観察・発表
5 (本時)	<u>Reading（身近な地域の問題点と改善策を紹介しよう）</u> ・ 新出語句の理解 ・ because 節の理解と練習 ・ 本文の理解と音読練習 ・ 重要表現を用いた地域の紹介文作成	ウー① ウー① ウー② エー②	ワークシート 観察・発表 自己評価表 観察・発表
6, 7	<u>補充・深化，及び発展学習</u> ・ 課題への取り組み ・ 課題の発表および評価	アー①，② イー①，②	ワークシート， 自己評価表
8	<u>単元のまとめ</u> ・ 単語・英作文 ・ 単元テスト	イー② エー①	単語・英作文テスト 単元プリント

6 本時の実際（5/8）

(1) 題材名

Unit 5 A park or a Parking Area

(2) 学習目標

身近な地域の問題点と改善策を英語で紹介できるようになる。

(3) 授業設計の視点

ア 主体的に発信できる課題設定の工夫

本時では本課の最終的な目標の一つである「身近な地域の問題点」について表現できるように、ワークシートの帯学習の一つである「新出語句を用いた英作文」の内容の精選を行っている。具体的には身近な地域の現状について考えられるような内容で、本課が進むにつれて「身近な地域の問題点」を書くのに必要な語句等が無理なく身に付けられるように配慮している。

イ 英語の語順やまとまりを意識して英文を理解し、読ませるための手だての工夫

本文の日本語訳については、生徒が自らチェックできるようにワークシートを工夫している。その際、英語の語順に従って日本語を並べ替えて提示している。

また、まとまりごとに／（スラッシュ）を入れて、英文の区切りを意識させて音読させる。さらに、その英語の語順に並べ替えた日本語訳をもとに英文を書くことによって、英作文力を向上させたいと考えている。（宅習として取り組ませる。）

ウ 発信に必要な表現を繰り返し練習させる手だての工夫

本時でも15マス文法定着ドリル「英語メキメキ向上ドリル」をタイムトライアル形式で導入時に実施する。生徒にとっては集中して繰り返し各ユニットの重要表現や文法の復習ができ、教師の側からは前時までの生徒の理解度を把握できることで、その後の個別指導に生かす。

(4) 授業の展開

課程	時間	学 習 活 動	学 習 内 容		指導上の留意点 研究の視点
			基本コース	発展コース	
導 入	8	1 あいさつ 2 Unit5(従属接続詞)の復習をする。 3 DVDを見て本文の概要を把握する。	○ 英語であいさつを交わす。 ○ ドリル練習で確認する。(従属接続詞) ○ 内容について教師が簡単な質問をして5の活動につなげる。	○ 英語であいさつを交わす。 ○ ドリル練習で確認する。(従属接続詞) ○ 内容について教師が簡単な質問をして5の活動につなげる。	繰り返し学習の継続的実施

		4 本時の目標を確認する。			
		身近な地域の問題点と改善策を英語で紹介できるようになるう			
展 開	3 9	5 ワークシートを使って新出語句の意味を理解する。	○ 教師とのインタラクションと必要に応じてワークシートから語句の導入を行う。	○ 教師とのインタラクションを通じて新出語句の意味を引き出す。	○ 英作文については、次時までの宿題とする。 ○ 地域を紹介するのに必要な語句は特に練習を重ね、定着させる。
		6 新出語句の意味を知り、読めるようになる。	○ フラッシュカードで確認をする。	○ フラッシュカードで確認する。	----- ワークシートの工夫 -----
		7 本文の内容に関するTFテストを解く。	○ TFテスト・穴埋め(日本語版)をする。	○ TFテスト・穴埋め(英語版)をする。	○ 本文を日本語に訳す活動は行わない。
		8 TFテストの解答をする。	○ 重要表現の確認をする。	○ 重要表現の確認をする。	○ 個別にヒントを与えながら机間指導を行う。
		9 本文の音読練習に取り組む。	○ 教師の後について音読させる。	○ 教師の後について音読させる。	○ 必要な情報を読み取るためのキーワードをチェックしてアンダーラインをひく。
		10 生徒同士で音読し合う。	○ ワークシートに聞いてもらった生徒のサインをもらい、決められた時間でできるだけ多くのサインをもらう。	○ ワークシートに聞いてもらった生徒のサインをもらい、決められた時間でできるだけ多くのサインをもらう。	○ 拡大したワークシートを掲示して確認する。 ○ まず、本文に区切り(/)を入れさせて、語順や語句のまとまりを確認させてから読む練習に取り組ませる。
		11 吉田の問題点と改善策についての英文を作成する。	○ これまでの学習を振り返りながら必要な表現を用いて英文を書く。	○ これまでの学習を振り返りながら必要な表現を用いて英文を書く。	----- 単位時間内における表現活動の工夫 -----
終 末	3	12 本時の学習を振り返り、自己評価をさせる。	○ ワークシートの自己評価欄に記入させる。 ○ 机間指導を行う。	○ ワークシートの自己評価欄に記入させる。 ○ 机間指導を行う。	
		13 次時の学習内容を知らせる。	○ ワークシートと11の発表をすることを知らせる。	○ ワークシートと11の発表をすることを知らせる。	----- 家庭学習の充実のため手立ての工夫 -----